

ワールドサポーター

正式名称：世界銀行債券ファンド（毎月分配型）
(愛称)

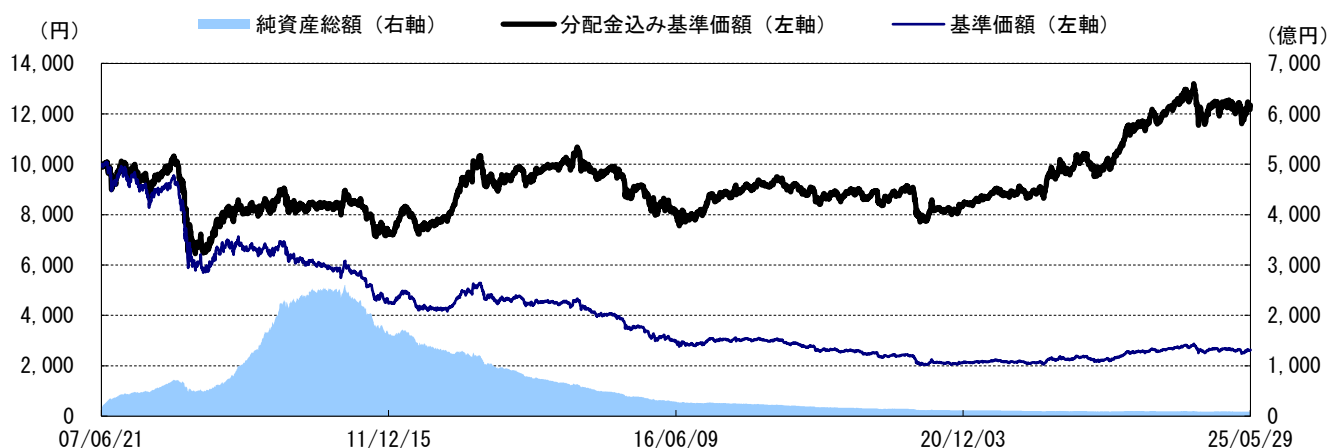
ファンドの概要

設定日：2007年6月21日 償還日：無期限
 決算日：原則毎月12日 収益分配：決算日毎（第2期以降）

運用実績

※このレポートでは基準価額および分配金を1万口当たりで表示しています。
 ※当レポート中の各数値は四捨五入して表示している場合がありますので、それを用いて計算すると誤差が生じることがあります。
 ※当レポートのグラフ、数値等は過去のものであり、将来の運用成果等を約束するものではありません。

＜基準価額の推移＞



※分配金込み基準価額は、当ファンドに分配金実績があった場合に、当該分配金（税引前）を再投資したものと計算した理論上のものである点にご留意下さい。
 ※基準価額は、信託報酬（後述の「手数料等の概要」参照）控除後の値です。信託報酬の詳細につきましては、後述の「手数料等の概要」をご覧ください。

基準価額：2,625円

純資産総額：89.87億円

＜基準価額の騰落率＞

1カ月	3カ月	6カ月	1年	3年	設定来
3.26%	1.67%	2.21%	-3.85%	27.14%	23.31%

※基準価額の騰落率は、当ファンドに分配金実績があった場合に、当該分配金（税引前）を再投資したものと計算した理論上のものである点にご留意下さい。

＜資産構成比率＞

ワールドバンク・ボンド・インカム・ファンド クラスA	98.7%
マネー・オープン・マザーファンド	0.1%
その他	1.2%

＜分配金実績（税引前）と決算日の基準価額＞

	設定来合計	直近12期計	24・6・12	24・7・12	24・8・13	24・9・12	24・10・15
分配金	6,820円	60円	5円	5円	5円	5円	5円
基準価額	-	-	2,740円	2,816円	2,605円	2,504円	2,653円
	24・11・12	24・12・12	25・1・14	25・2・12	25・3・12	25・4・14	25・5・12
分配金	5円	5円	5円	5円	5円	5円	5円
基準価額	2,664円	2,640円	2,650円	2,632円	2,587円	2,499円	2,606円

＜基準価額騰落の要因分解＞

前月末基準価額	2,547円
当月お支払いした分配金	-5円
為替	ブラジルレアル 4円
	インドルピー 4円
	マレーシアリンギット 0円
	メキシコペソ 9円
	ポーランドズロチ 5円
	南アフリカランド 19円
	トルコリラ 0円
	コロンビアペソ 8円
	人民元 2円
	チリペソ 2円
	フィリピンペソ 0円
	ペルーソル 0円
	インドネシアルピア 16円
債券要因	インカムゲイン 11円
	キャピタルゲイン 5円
その他	-2円
当月末基準価額	2,625円

※上記の要因分解は、概算値であり、実際の基準価額の変動を正確に説明するものではありません。傾向を知るための参考値としてご覧ください。

投資信託は、値動きのある資産（外貨建資産は為替変動リスクもあります。）を投資対象としているため、基準価額は変動します。したがって、元金を割り込むことがあります。後述のリスク情報とその他の留意事項をよくお読みください。

■当資料は、投資者の皆様に向ファンドへのご理解を高めていただくことを目的として、日興アセットマネジメントが作成した販売用資料です。掲載されている見解は、当資料作成時点のものであり、将来の市場環境や運用成果などを保証するものではありません。

ワールドサポーター (愛称)

ワールドバンク・ボンド・インカム・ファンド クラスAのポートフォリオの内容

<通貨別構成比>

インドルピー	15.7%
インドネシアルピア	15.4%
ブラジルリアル	14.6%
メキシコペソ	14.5%
南アフリカランド	14.3%
ポーランドズロチ	11.1%
コロンビアペソ	8.4%
チリペソ	3.0%
人民元	2.6%
日本円	0.4%
アメリカドル	0.0%
トルコリラ	0.0%
ユーロ	0.0%

※日興アセットマネジメント ヨーロッパ リミテッドより提供された情報です。

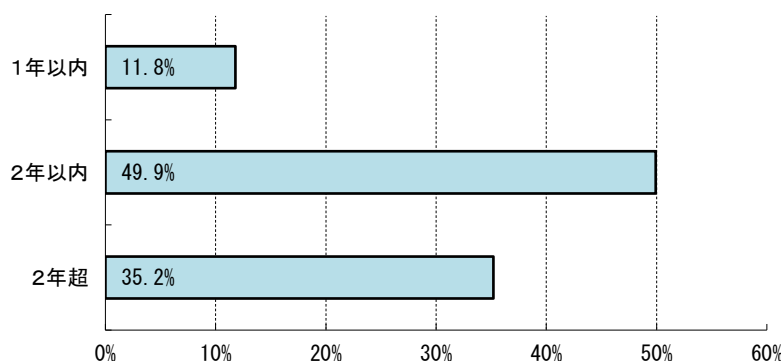
<格付別構成比>

Aaa	96.9%
Aa	0.0%
A	0.0%
Baa以下	0.0%
平均格付	Aaa

※比率は当外国投資信託の純資産総額比です。
※格付はMoody's、S&Pのうち、高い格付を採用しています。
※平均格付とは、データ基準日時点で当外国投資信託が保有している有価証券などに係る信用格付を加重平均したものであり、当外国投資信託に係る信用格付ではありません。

※比率は当外国投資信託の純資産総額比です。

<残存別構成比>



※比率は当外国投資信託の純資産総額比です。
※変動利付債は次回利払い日までの日数で計算しています。

<公社債種別構成比>

世界銀行債券	96.9%
ソブリン債他	0.0%

※比率は当外国投資信託の純資産総額比です。
※ソブリン債は国債、政府機関債、政府保証債、国際機関債などです。

<ポートフォリオの特性値>

ポートフォリオの最終利回り	7.51%
ポートフォリオの直接利回り	5.54%
ポートフォリオの平均残存年数	1.65年
組入債券の銘柄数	18銘柄

※利回りは、個別債券および短期金融資産について加重平均したものです。
※最終利回りは、債券および短期金融資産を満期まで保有した場合の利回りです。
※利回りは将来得られる期待利回りを示すものではありません。

投資信託は、値動きのある資産（外貨建資産は為替変動リスクもあります。）を投資対象としているため、基準価額は変動します。したがって、元金を割り込むことがあります。後述のリスク情報とその他の留意事項をよくお読みください。

■当資料は、投資者の皆様にご理解を深めていただくことを目的として、日興アセットマネジメントが作成した販売用資料です。掲載されている見解は、当資料作成時点のものであり、将来の市場環境や運用成果などを保証するものではありません。

ワールドサポーター (愛称)

運用コメント

※運用方針等は作成基準日現在のものであり、将来の市場環境の変動等により変更される場合があります。

◎運用概況

当ファンドは、新興国市場の通貨に分散させながら世界銀行債券に投資しています。当ファンドの基準価額（分配金考慮後）は、前月末比で上昇しました。多くの投資対象通貨が当ファンドの基準通貨である日本円に対して上昇しました。また、保有債券からの受取利息と保有債券の価格上昇も当ファンドのリターンに寄与しました。

◎今後の見通し

新興国市場では、世界的な不確実性の高まりや貿易政策の変化、金融政策の道筋の違いなど、複雑かつ変化するマクロ経済状況に覆われています。これらの逆風にもかかわらず、新興国資産は相対的な底堅さの兆候をみせており、新興国通貨市場や現地通貨建て新興国債券市場などは4月のボラティリティ（変動性）の急上昇から概ね回復しています。当月は、米ドルが軟調に推移したことや投資家のリスク選好姿勢の改善に伴い、安全な避難先資産への需要が後退したことなどを背景に、新興国通貨は上昇しました。これに関連して、現地通貨建て新興国国債の指数は、利回りの低下や新興国通貨のプラスの寄与により好調に推移しました。国際資本動向調査では、新興国市場は3月に約375億米ドルの流入を記録した後、資金流入が急速に失速して、4月は約2億米ドルの流出超となりました。この資金フローの反転は、4月の米国による相互関税の発表を受けて世界的にリスク選好姿勢が著しく悪化し、ボラティリティが急上昇するなかで、投資家によるリスク抑制の動きが広範に及んだことを反映しています。新興国株式への資金フローが大きな打撃を受けており、4月は純流出を記録しています。4月の新興国債券への資金フローは純流入を記録しましたが、資金流入の大部分が中国債券に集中しています。多くの投資家が慎重な姿勢をとり、選択的にリスク配分を決定していることが示唆されています。

新興国市場における金融政策はばらつきが拡大しています。欧州・中東・アフリカを指す「EMEA」地域の新興国では、中央銀行が緩和姿勢とインフレへの警戒をうまく両立させています。ポーランドでは、インフレが減速し、経済成長が低迷するなかで、5月に2023年以降初となる利下げを実施し、政策金利を0.50%引き下げて5.25%とすることを決定しています。ハンガリーとルーマニアでは、それぞれ持続的なインフレリスクや財政懸念を理由に利下げを見送り、政策金利を据え置くことを決定しています。南アフリカでは、デysinフレ傾向と国内経済の減速に対応するなかで、5月に政策金利を0.25%引き下げて7.25%にすることを決定しています。中南米地域では、金融政策の方向がばらばらの状況が続いています。ブラジルでは、中央銀行が国内の根強いインフレなどを踏まえて、市場予想通り5月に政策金利を0.50%引き上げて14.75%にすることを決定しています。一方、メキシコでは、インフレの改善と内需の減速などを受けて、5月に政策金利を0.50%引き下げて8.50%にすることを決定しています。アジア地域では、金融政策は引き続き緩和方向に傾いています。中国では、新たな貿易関連の逆風に対処することを目的として、主要政策金利である7日物リバースレポ金利の引き下げや、預金準備率の引き下げなどを含む重要な景気刺激策を実施しています。インドでは、インフレの減速や積極的な流動性管理を背景に、金融政策の緩やかな緩和姿勢を維持しています。韓国とインドネシアでも、経済成長の減速傾向を受けて5月に政策金利の引き下げを実施しています。全体的に、アジアの新興国市場における金融政策は、引き続き内需の維持と世界的に高まる不確実性への対処に焦点が当てられています。

投資信託は、値動きのある資産（外貨建資産は為替変動リスクもあります。）を投資対象としているため、基準価額は変動します。したがって、元金を割り込むことがあります。後述のリスク情報とその他の留意事項をよくお読みください。

■当資料は、投資者の皆様にご理解を高めることを目的として、日興アセットマネジメントが作成した販売用資料です。掲載されている見解は、当資料作成時点のものであり、将来の市場環境や運用成果などを保証するものではありません。

ワールドサポーター (愛称)

運用コメント

※運用方針等は作成基準日現在のものであり、将来の市場環境の変動等により変更される場合があります。

◎市場環境

<北米・中南米>

【メキシコ】

メキシコペソは対円で上昇しました。市場のリスク選好姿勢が世界的に改善し、一般的に安全資産とされる円などに対する需要が低下しました。メキシコ国内では、2025年第1四半期のGDP成長率は前期比0.2%増となり、前四半期からプラスに転じ、2四半期連続でGDP成長率がマイナスになることを回避しました。詳細をみると、農業セクターが堅調な伸びを示した一方、産業セクターやサービスセクターは低迷しました。また、当月発表された経済指標もまちまちとなり、メキシコ国家統計地理情報院が発表した3月の経済活動指数は前月比0.36%減となりました。5月前半の総合消費者物価指数(CPI)の上昇率は前年同期比4.22%となり、中央銀行の目標範囲である2~4%の上限を上回りました。

【ブラジル】

ブラジルレアルは対円で上昇しました。市場のリスク選好姿勢が世界的に改善し、一般的に安全資産とされる円などに対する需要が低下しました。ブラジルの中央銀行は、5月の金融政策決定会合で政策金利を0.50%引き上げて14.75%とし、約20年ぶりの高水準に達しました。インフレ圧力の継続が今回の決定に影響を与えており、2025年のインフレ見通しは引き続き目標の3%を上回りました。同中銀は、今後の金融政策措置は、不確実性やこれまでの利上げの影響が反映されたデータに基づいて行われると述べました。

【コロンビア】

コロンビアペソは対円で上昇しました。市場のリスク選好姿勢が世界的に改善し、一般的に安全資産とされる円などに対する需要が低下しました。当月は、コロンビアの経済が底堅く推移していることが示されました。4月の総合消費者物価指数(CPI)の上昇率は、輸送費の上昇率加速などを受けて前年同月比5.16%となり、前月から加速しました。コアCPIの上昇率も前年同月比で加速しました。また、2025年第1四半期のGDP成長率は、好調な個人消費や政府支出を受けて前年同期比2.7%増となり、市場予想を上回りました。

【チリ】

チリペソは対円で上昇しました。市場のリスク選好姿勢が世界的に改善し、一般的に安全資産とされる円などに対する需要が低下しました。当月発表された経済指標では、チリの経済成長が緩やかなペースで続いていることが示されました。4月の経済活動指数は前年同月比2.5%となり、市場予想を若干上回りましたが、前月からは減速しました。こうした状況にもかかわらず、同国経済は好調な銅の輸出や国内消費の回復を受けて底堅さを維持しています。同国の中央銀行は、インフレを抑制して経済成長を下支えするために、4月の金融政策決定会合で政策金利を5.00%に据え置きました。

<アジア・オセアニア>

【インド】

インドルピーは対円で上昇しました。市場のリスク選好姿勢が世界的に改善し、一般的に安全資産とされる円などに対する需要が低下しました。当月発表された経済指標では、インド経済のまちまちな動向が示されました。5月の製造業購買担当者景気指数(PMI)の改定値は、地政学的緊張などを受けて57.6となり、前月から低下しました。雇用が急増し、輸出受注もアジアや欧州、中東、米国などからの需要を受けて力強い伸びをみせました。一方、5月のサービス業PMIの速報値は14ヵ月ぶりの高水準となる61.2となり、前月から上昇しました。国内外の好調な需要や輸出の増加が主な要因でした。また、サービス業の雇用も記録的な高水準となりました。

【中国】

中国人民元は対円で上昇しました。市場のリスク選好姿勢が世界的に改善し、一般的に安全資産とされる円などに対する需要が低下しました。当月発表された経済指標は、貿易をめぐる緊張や国内の問題を受けてまちまちの結果となりました。国家統計局が発表した5月の製造業購買担当者景気指数(PMI)は49.5となり、前月から小幅に上昇しましたが、景気の拡大・縮小の境目である50を引き続き下回っており、継続的な景気の縮小が示唆されています。製造業PMIは2ヵ月連続での低迷となり、世界的な貿易戦争によって製造業セクターや中国経済が圧迫されていることが示されています。こうした状況においても、積極的な政策や米国の関税を控えた輸出の前倒しなどが追い風となり、2025年第1四半期のGDP成長率は前年同期比5.4%増と前四半期と同水準の伸びとなり、市場予想を上回りました。

【インドネシア】

インドネシアルピアは対円で上昇しました。市場のリスク選好姿勢が世界的に改善し、一般的に安全資産とされる円などに対する需要が低下しました。インドネシアの中央銀行は、5月の金融政策決定会合で政策金利を0.25%引き下げて5.50%としました。この動きは、国内の経済活動が低迷し、インフレが緩和するなかで、経済成長を下支えすることを目的とするものです。同中銀総裁は、利下げ決定は、インフレ率が2025年から2026年にかけて目標範囲内に収まるとの予想に沿ったものであり、自国通貨ルピアの安定を目指すものであると述べました。インドネシアの2025年第1四半期のGDP成長率は前年同期比4.87%増と、前四半期から減速したことを受けて、同中銀は今年のGDP成長率予想を従来予想から4.6~5.4%へと若干下方修正しました。

投資信託は、値動きのある資産（外貨建資産は為替変動リスクもあります。）を投資対象としているため、基準価額は変動します。したがって、元金を割り込むことがあります。後述のリスク情報とその他の留意事項をよくお読みください。

■当資料は、投資者の皆様にも当ファンドへのご理解を高めていただくことを目的として、日興アセットマネジメントが作成した販売用資料です。掲載されている見解は、当資料作成時点のものであり、将来の市場環境や運用成果などを保証するものではありません。

ワールドサポーター (愛称)

運用コメント

※運用方針等は作成基準日現在のものであり、将来の市場環境の変動等により変更される場合があります。

<欧州・中東>

【ポーランド】

ポーランドズロチは対円で上昇しました。市場のリスク選好姿勢が世界的に改善し、一般的に安全資産とされる円などに対する需要が低下しました。6月初旬に実施されたポーランド大統領選挙の決選投票では、保守派の野党「法と正義」が推すナブロッツキ氏が、リベラル派の与党候補で首都ワルシャワの市長でもあるチャスコフスキ氏を僅差で破りました。この結果は、同国の政治改革を複雑にし、政治的な二極化を強める可能性があります。

<アフリカ>

【南アフリカ】

南アフリカランドは対円で上昇しました。市場のリスク選好姿勢が世界的に改善し、一般的に安全資産とされる円などに対する需要が低下しました。南アフリカの中央銀行は、5月の金融政策決定会合で政策金利を0.25%引き下げて7.25%とし、約2年ぶりの低水準となりました。この決定は、インフレ率の減速や経済見通しの悪化などを背景に、6名の金融政策委員のうち5名によって支持されました。4月の総合消費者物価指数(CPI)の上昇率は前年同月比2.8%と前月から加速しましたが、燃料価格の下落や自国通貨ランドの上昇が主因となり、中央銀行の目標範囲である3～6%を下回りました。これを受けて、同中銀は2025年のインフレ率予想を従来予想から3.2%へと下方修正しました。

投資信託は、値動きのある資産（外貨建資産は為替変動リスクもあります。）を投資対象としているため、基準価額は変動します。したがって、元金を割り込むことがあります。後述のリスク情報とその他の留意事項をよくお読みください。

■当資料は、投資者の皆様にご理解を高めていただくことを目的として、日興アセットマネジメントが作成した販売用資料です。掲載されている見解は、当資料作成時点のものであり、将来の市場環境や運用成果などを保証するものではありません。

ファンドの特色

世界初*、世界銀行との協同開発ファンド

*日興アセットマネジメント調べ

特色 1

信用力の高い世界銀行が発行する新興国通貨建ての短期債券に投資を行ないます。

- ・世界銀行とは、貧困削減と持続的成長の実現に向け、新興国に対して融資や技術協力、政策助言などを提供する国際開発金融機関です。
- ・相対的に利回りの高い新興国通貨建ての短期債券を投資対象とします。

特色 2

毎月の安定分配をめざしながら、新興国を応援します。

- ・毎月12日(休業日の場合は翌営業日)を決算日とします。

※分配金額は収益分配方針に基づいて委託会社が決定しますが、委託会社の判断により分配金額を変更する場合や分配を行わない場合もあります。

●市況動向および資金動向などにより、上記のような運用ができない場合があります。

●当ファンドは「ESG投信」です

- ・当ファンドは、原則として世界銀行が発行する債券でポートフォリオを構築しており、その運用方針においてESGを主要な要素としていることから、日興アセットマネジメントが「金融商品取引業者等向けの総合的な監督指針」を踏まえて定めた「ESG投信」です。
- ・世界銀行は、発行する債券を通じて調達した資金で、貧困削減と持続的成長の実現に向け、主に新興国に対して融資や政策助言などを提供しております。

※詳細は、投資信託説明書(交付目論見書)をご参照ください。

投資信託は、値動きのある資産（外貨建資産は為替変動リスクもあります。）を投資対象としているため、基準価額は変動します。したがって、元金を割り込むことがあります。後述のリスク情報とその他の留意事項をよくお読みください。

■当資料は、投資者の皆様に向ファンドへのご理解を高めていただくことを目的として、日興アセットマネジメントが作成した販売用資料です。掲載されている見解は、当資料作成時点のものであり、将来の市場環境や運用成果などを保証するものではありません。

■お申込みメモ

商品分類
購入単位追加型投信／海外／債券
販売会社が定める単位
※販売会社の照会先にお問い合わせください。購入価額
信託期間
決算日
収益分配購入申込受付日の翌営業日の基準価額
無期限(2007年6月21日設定)
毎月12日(休業日の場合は翌営業日)
毎決算時に、分配金額は、委託会社が基準価額水準などを勘案して決定するものとし、原則として、安定した分配を継続的に行うことをめざします。
※将来の分配金の支払いおよびその金額について保証するものではありません。
換金申込受付日の翌営業日の基準価額
販売会社の営業日であっても、下記のいずれかに該当する場合は、購入・換金の申込みの受付は行ないません。詳しくは、販売会社にお問い合わせください。換金価額
購入・換金申込不可日・英国証券取引所の休業日
・ニューヨーク証券取引所の休業日
・ロンドンの銀行休業日
・ニューヨークの銀行休業日換金代金
課税関係原則として、換金申込受付日から起算して6営業日目からお支払いします。
原則として、分配時の普通分配金ならびに換金時および償還時の差益は課税の対象となります。
※課税上は、株式投資信託として取り扱われます。
※公募株式投資信託は税法上、一定の要件を満たした場合に少額投資非課税制度(NISA)の適用対象となります。
※当ファンドは、NISAの対象ではありません。
※配当控除の適用はありません。
※益金不算入制度は適用されません。

■手数料等の概要

投資者の皆様には、以下の費用をご負担いただきます。

<申込時、換金時にご負担いただく費用>

購入時手数料

購入時の基準価額に対し3.3%(税抜3%)以内

※購入時手数料は販売会社が定めます。詳しくは、販売会社にお問い合わせください。
※収益分配金の再投資により取得する口数については、購入時手数料はかかりません。

<<ご参考>>

(金額指定で購入する場合)

購入金額に購入時手数料を加えた合計額が指定金額(お支払いいただく金額)となるよう購入口数を計算します。

例えば、100万円の金額指定で購入する場合、指定金額の100万円の中から購入時手数料(税込)をいただきますので、100万円全額が当ファンドの購入金額とはなりません。

※上記の計算方法と異なる場合があります。詳しくは販売会社にお問い合わせください。

(口数指定で購入する場合)

例えば、基準価額10,000円のときに、購入時手数料率3.3%(税込)で、100万口ご購入いただく場合は次のように計算します。

$$\text{購入金額} = (10,000\text{円} \div 1\text{万口}) \times 100\text{万口} = 100\text{万円}$$
$$\text{購入時手数料} = \text{購入金額}(100\text{万円}) \times 3.3\%(\text{税込}) = 33,000\text{円}$$
となり、購入金額に購入時手数料を加えた合計額103万3,000円をお支払いいただくこととなります。

換金手数料

ありません。

信託財産留保額

ありません。

<信託財産で間接的にご負担いただく(ファンドから支払われる)費用>

運用管理費用

純資産総額に対し年率1.313%(税抜1.223%)程度が実質的な信託報酬となります。

(信託報酬)

信託報酬率の内訳は、当ファンドの信託報酬率が年率0.99%(税抜0.90%)、投資対象とするケイマン籍円建外国投資信託「ワールドバンク・ボンド・インカム・ファンド クラスA」の組入れに係る信託報酬率が年率0.323%程度となります。

その他の費用・手数料

当該外国投資信託の信託報酬率は、純資産総額や為替相場によって変動します。それに伴ない、実質的な信託報酬率も変動します。

目論見書などの作成・交付に係る費用および監査費用などについては、ファンドの日々の純資産総額に対して年率0.1%を乗じた額の信託期間を通じた合計を上限とする額が信託財産から支払われます。

組入る有価証券の売買委託手数料、資産を外国で保管する場合の費用、借入金の利息および立替金の利息などがその都度、信託財産から支払われます。

※運用状況などにより変動するものであり、事前に料率、上限額などを表示することはできません。

※投資者の皆様にご負担いただくファンドの費用などの合計額については、保有期間や運用の状況などに応じて異なりますので、表示することができません。

※詳しくは、投資信託説明書(交付目論見書)をご覧ください。

■委託会社、その他関係法人

委託会社 : 日興アセットマネジメント株式会社
受託会社 : 野村信託銀行株式会社
販売会社 : 販売会社については下記にお問い合わせください。
日興アセットマネジメント株式会社
〔ホームページ〕www.nikkoam.com/
〔コールセンター〕0120-25-1404(午前9時~午後5時。土、日、祝・休日は除く。)

■お申込みに際しての留意事項

○リスク情報

- ・投資者の皆様の投資元金は保証されているものではなく、基準価額の下落により、損失を被り、投資元金を割り込むことがあります。ファンドの運用による損益はすべて投資者（受益者）の皆様に帰属します。なお、当ファンドは預貯金とは異なります。
- ・当ファンドは、主に債券を実質的な投資対象としますので、債券の価格の下落や、債券の発行体の財務状況や業績の悪化などの影響により、基準価額が下落し、損失を被ることがあります。また、外貨建資産に投資する場合には、為替の変動により損失を被ることがあります。
- ・投資対象とする投資信託証券の主なリスクは以下の通りです。

【為替変動リスク】

- ・外貨建資産については、一般に外国為替相場が当該資産の通貨に対して円高になった場合には、ファンドの基準価額が値下がりする要因となります。
- ・新興国通貨建ての債券は、新興国の通貨の為替変動に影響を受けます。新興国の通貨は、先進国の通貨に比べて為替変動が大きくなる場合があります。

【カントリー・リスク】

- ・投資対象となる債券は新興国通貨建てで起債されたものであるため、新興国における非常事態など（金融危機、財政上の理由による国自体のデフォルト、重大な政策変更や資産凍結を含む規制の導入、自然災害、クーデターや重大な政治体制の変更、戦争など）を含む市況動向や資金動向などによっては、ファンドにおいて重大な損失が生じるリスクがあり、投資方針に従った運用ができない場合があります。
- ・一般に新興国は、情報の開示などが先進国に比べて充分でない、あるいは正確な情報の入手が遅延する場合があります。

【価格変動リスク】

- ・公社債は、金利変動により価格が変動するリスクがあります。一般に金利が上昇した場合には価格は下落し、ファンドの基準価額が値下がりする要因となります。ただし、その価格変動幅は、残存期間やクーポンレートなどの発行条件などにより債券ごとに異なります。

【流動性リスク】

- ・市場規模や取引量が少ない状況においては、有価証券の取得、売却時の売買価格は取引量の大きさに影響を受け、市場実勢から期待できる価格どおりに取引できないリスク、評価価格どおりに売却できないリスク、あるいは、価格の高低に関わらず取引量が限られてしまうリスクがあり、その結果、不測の損失を被るリスクがあります。
- ・新興国の通貨は、先進国の通貨に比べて市場規模や取引量が少ないため、流動性リスクが高まる場合があります。

【信用リスク】

- ・公社債および短期金融資産の発行体にデフォルト（債務不履行）が生じた場合またはそれが予想される場合には、公社債および短期金融資産の価格が下落（価格がゼロになることもあります。）し、ファンドの基準価額が値下がりする要因となります。また、実際にデフォルトが生じた場合、投資した資金が回収できないリスクが高い確率で発生します。

【ESG投資に関するリスク】

- ・ESG特性を重視して投資を行なうため、ファンドの基準価額の値動きは市場全体の値動きと異なる場合があります。その結果、ファンドの基準価額は大きく変動する場合があります。

※ファンドが投資対象とする投資信託証券は、これらの影響を受けて価格が変動しますので、ファンド自身にもこれらのリスクがあります。

※基準価額の変動要因は、上記に限定されるものではありません。

○その他の留意事項

- ・当資料は、投資者の皆様へ「世界銀行債券ファンド（毎月分配型）/愛称：ワールドサポーター」へのご理解を高めていただくことを目的として、日興アセットマネジメントが作成した販売用資料です。
- ・当ファンドのお取引に関しては、金融商品取引法第37条の6の規定（いわゆるクーリング・オフ）の適用はありません。
- ・投資信託は、預金や保険契約とは異なり、預金保険機構および保険契約者保護機構の保護の対象ではありません。また、銀行など登録金融機関で購入された場合、投資者保護基金の支払いの対象とはなりません。
- ・投資信託の運用による損益は、すべて受益者の皆様に帰属します。当ファンドをお申込みの際には、投資信託説明書（交付目論見書）などを販売会社よりお渡ししますので、内容を必ずご確認ください。お客様ご自身でご判断ください。

設定・運用は 日興アセットマネジメント株式会社
金融商品取引業者 関東財務局長（金商）第368号
加入協会：一般社団法人投資信託協会
一般社団法人日本投資顧問業協会

投資信託説明書(交付目論見書)のご請求・お申込みは

金融商品取引業者等の名称			登録番号	加入協会			
				日本証券業協会	一般社団法人 日本 投資顧問業 協会	一般社団法人 金融先物 取引業協会	一般社団法人 第二種 金融商品 取引業協会
株式会社青森みちのく銀行	登録金融機関	東北財務局長（登金）第1号	○				
あかつき証券株式会社	金融商品取引業者	関東財務局長（金商）第67号	○	○	○		
株式会社秋田銀行	登録金融機関	東北財務局長（登金）第2号	○				
株式会社イオン銀行 （委託金融商品取引業者 マネックス証券株式会社）	登録金融機関	関東財務局長（登金）第633号	○				
株式会社池田泉州銀行	登録金融機関	近畿財務局長（登金）第6号	○		○		
池田泉州ＴＴ証券株式会社	金融商品取引業者	近畿財務局長（金商）第370号	○				
株式会社岩手銀行	登録金融機関	東北財務局長（登金）第3号	○				
SMBＣ日興証券株式会社	金融商品取引業者	関東財務局長（金商）第2251号	○	○	○		○
株式会社ＳＢＩ証券 ※右の他に一般社団法人日本ＳＴＯ協会にも加入	金融商品取引業者	関東財務局長（金商）第44号	○		○		○
株式会社ＳＢＩ新生銀行 （委託金融商品取引業者 株式会社ＳＢＩ証券） （委託金融商品取引業者 マネックス証券株式会社）	登録金融機関	関東財務局長（登金）第10号	○		○		
株式会社さらばし銀行	登録金融機関	関東財務局長（登金）第53号	○		○		
株式会社佐賀銀行	登録金融機関	福岡財務支局長（登金）第1号	○		○		
株式会社静岡銀行	登録金融機関	東海財務局長（登金）第5号	○		○		
株式会社七十七銀行	登録金融機関	東北財務局長（登金）第5号	○		○		
七十七証券株式会社	金融商品取引業者	東北財務局長（金商）第37号	○				
株式会社十六銀行	登録金融機関	東海財務局長（登金）第7号	○		○		
株式会社荘内銀行	登録金融機関	東北財務局長（登金）第6号	○				
株式会社常陽銀行	登録金融機関	関東財務局長（登金）第45号	○		○		
ソニー銀行株式会社 ※右の他に一般社団法人日本ＳＴＯ協会にも加入	登録金融機関	関東財務局長（登金）第578号	○		○		○
株式会社第四北越銀行	登録金融機関	関東財務局長（登金）第47号	○		○		
大和証券株式会社 ※右の他に一般社団法人日本ＳＴＯ協会にも加入	金融商品取引業者	関東財務局長（金商）第108号	○	○	○		○
株式会社千葉銀行	登録金融機関	関東財務局長（登金）第39号	○		○		
ちばざん証券株式会社	金融商品取引業者	関東財務局長（金商）第114号	○				
東海東京証券株式会社 ※右の他に一般社団法人日本ＳＴＯ協会にも加入	金融商品取引業者	東海財務局長（金商）第140号	○	○	○		○
株式会社徳島大正銀行	登録金融機関	四国財務局長（登金）第10号	○				
内藤証券株式会社	金融商品取引業者	近畿財務局長（金商）第24号	○				○
株式会社長崎銀行	登録金融機関	福岡財務支局長（登金）第11号	○				
株式会社西日本シティ銀行	登録金融機関	福岡財務支局長（登金）第6号	○		○		
西日本シティＴＴ証券株式会社	金融商品取引業者	福岡財務支局長（金商）第75号	○				
日産証券株式会社	金融商品取引業者	関東財務局長（金商）第131号	○		○		○
野村證券株式会社	金融商品取引業者	関東財務局長（金商）第142号	○	○	○		○
株式会社八十二銀行	登録金融機関	関東財務局長（登金）第49号	○		○		
株式会社八十二銀行 （委託金融商品取引業者 八十二証券株式会社）	登録金融機関	関東財務局長（登金）第49号	○		○		
八十二証券株式会社	金融商品取引業者	関東財務局長（金商）第21号	○	○			
株式会社百五銀行	登録金融機関	東海財務局長（登金）第10号	○		○		
百五証券株式会社	金融商品取引業者	東海財務局長（金商）第134号	○				
株式会社百十四銀行	登録金融機関	四国財務局長（登金）第5号	○		○		
株式会社広島銀行	登録金融機関	中国財務局長（登金）第5号	○		○		
株式会社福島銀行	登録金融機関	東北財務局長（登金）第18号	○				
Pay Pay 銀行株式会社	登録金融機関	関東財務局長（登金）第624号	○		○		
株式会社北陸銀行	登録金融機関	北陸財務局長（登金）第3号	○		○		
松井証券株式会社	金融商品取引業者	関東財務局長（金商）第164号	○		○		
マネックス証券株式会社	金融商品取引業者	関東財務局長（金商）第165号	○	○	○		○
株式会社みずほ銀行	登録金融機関	関東財務局長（登金）第6号	○		○		○
株式会社三井住友銀行	登録金融機関	関東財務局長（登金）第54号	○		○		○
三菱ＵＦＪ ｅスマート証券株式会社	金融商品取引業者	関東財務局長（金商）第61号	○	○	○		○
水戸証券株式会社	金融商品取引業者	関東財務局長（金商）第181号	○	○			
株式会社南日本銀行	登録金融機関	九州財務局長（登金）第8号	○				
株式会社宮崎銀行	登録金融機関	九州財務局長（登金）第5号	○				
m o o m o o 証券株式会社	金融商品取引業者	関東財務局長（金商）第3335号	○	○			
株式会社武蔵野銀行	登録金融機関	関東財務局長（登金）第38号	○				
株式会社横浜銀行	登録金融機関	関東財務局長（登金）第36号	○		○		
楽天証券株式会社	金融商品取引業者	関東財務局長（金商）第195号	○	○	○		○

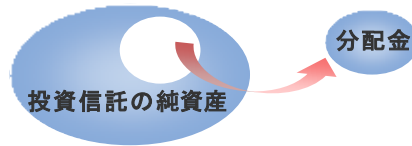
※上記販売会社情報は、作成時点の情報に基づいて作成しております。

※販売会社によっては取扱いを中止している場合がございます。

収益分配金に関する留意事項

- 分配金は、預貯金の利息とは異なり、投資信託の純資産から支払われますので、分配金が支払われると、その金額相当分、基準価額は下がります。

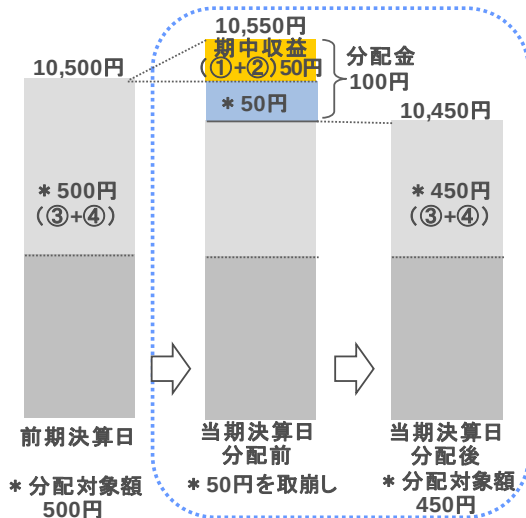
投資信託で分配金が支払われるイメージ



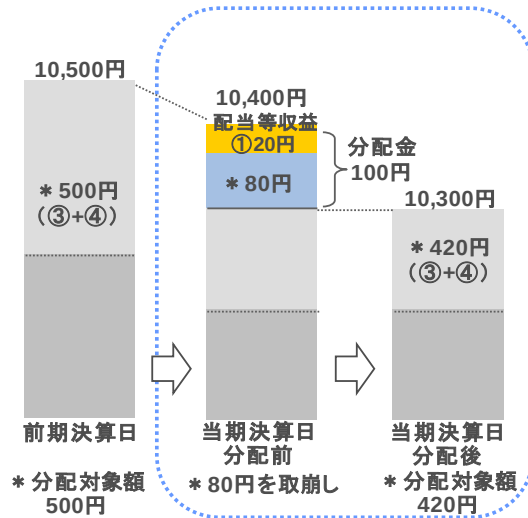
- 分配金は、計算期間中に発生した収益(経費控除後の配当等収益および評価益を含む売買益)を超えて支払われる場合があります。その場合、当期決算日の基準価額は前期決算日と比べて下落することになります。また、分配金の水準は、必ずしも計算期間におけるファンドの収益率を示すものではありません。

計算期間中に発生した収益を超えて支払われる場合

前期決算から基準価額が上昇した場合



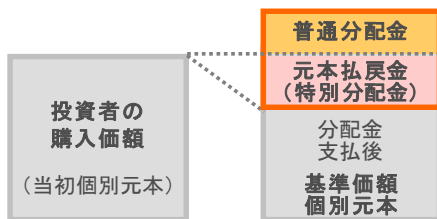
前期決算から基準価額が下落した場合



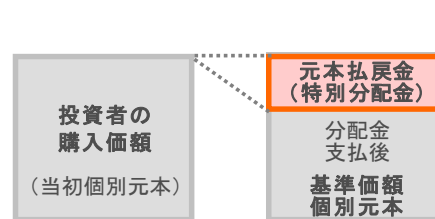
(注)分配対象額は、①経費控除後の配当等収益および②経費控除後の評価益を含む売買益ならびに③分配準備積立金および④収益調整金です。分配金は、分配方針に基づき、分配対象額から支払われます。
※上記はイメージであり、将来の分配金の支払いおよび金額ならびに基準価額について示唆、保証するものではありません。

- 投資者のファンドの購入価額によっては、分配金の一部または全部が、実質的には元本の一部払戻しに相当する場合があります。ファンド購入後の運用状況により、分配金額より基準価額の値上がりの方が小さかった場合も同様です。

分配金の一部が元本の一部払戻しに相当する場合



分配金の全部が元本の一部払戻しに相当する場合



※元本払戻金(特別分配金)は実質的に元本の一部払戻しとみなされ、その金額だけ個別元本が減少します。
また、元本払戻金(特別分配金)部分は非課税扱いとなります。

普通分配金 : 個別元本(投資者のファンドの購入価額)を上回る部分からの分配金です。
元本払戻金(特別分配金) : 個別元本を下回る部分からの分配金です。分配後の投資者の個別元本は、元本払戻金(特別分配金)の額だけ減少します。